

2018 年度 立命館附属校新任教諭 APU 研修

附属校教育研究・研修センター

5月1日(月)・5月2日(火)の2日間にわたり、2018年度立命館附属校新任教諭研修を、立命館アジア太平洋大学(APU)で開催した。APU事務局に準備していただいたスケジュールに従って、学生の皆さんの協力も得て充実した研修会となった。16年度17年度採用の先生方の参加もあり、総勢29名でAPUを訪問させていただいた。今年1月から就任された出口治明学長から講話、APUについて理解を深める研修、APU学生団体の活動紹介、附属校出身者との交流、APハウス(学生寮)の見学と盛りだくさんの内容であったが、時を忘れるくらい充実した研修会となった。以下報告する。

《研修内容》

I レクチャー「APUの学生生活～入学から卒業後のキャリアまで～」

講師：APUアドミッションズ・オフィス(国内) 課長：村上 吉胤氏

大学紹介

日本でオンリーワンの国際系大学、世界大学ランキング日本版2018(教育リソース、教育充実度、教育成果、国際性の4分野・13項目で評価)で総合21位、私大では5位に位置している。

90か国から学生が進学してくる卓越したグローバルな環境(50%が国際学生)が用意されている。アジアからの学生が多く、特にベトナムからは国のトップの学生が入学している。

国際経営学部と経営管理研究科は国際認証AACSBを取得し、世界でも最高水準の教育を提供する教育機関と認証されている。日本では3校目の取得である。また、アジア太平洋学部観光学分野は国際認証TedQualを取得している。国際的に就職に有利な大学である。

授業内容など

授業ではディスカッションメインの積極的な議論(自らの国での理論をもとに)が行われ、日英2言語教育である。国内学生と国際学生を混ぜて、自分の主張を貫くだけでなく、その中で課題を解決していく「混ぜる教育」を実施している。企業のグローバル化が進む中で認知能力だけでなく踏ん張れる力などの非認知能力が必要とされ、APUでは非認知能力を伸ばす取り組みが実施されている。

海外学修プログラムとして、入学前の3月にアメリカへ(2週間)、1回生では6月にファーストプログラム(異文化オリエンテーリング)を実施している。異文化オリエンテーリングは、英語が通じない地域に少人数のグループで学生が渡航手続きから宿舍手配等全てを行い、目的地までいくプログラムである。その中で学生は困惑し、時には意見も対立する場面もあるが、大きな成長を遂げていく。

課外活動として、国ごとにイベントウィークが設定されている(例：インドネシアウィークでは食堂でインドネシア料理、大使が来る、ホールで民族の踊りや芸能が紹介される)企画や運営をすべて学生が行う、それ以外にも他国の学生がサポートし、国際性を養っていく。

キャリア教育

混ぜる教育を通して、自分の快適な環境から飛び出してリスクをとる、世界の高みと競争する、ストレスの中で我慢する、多様性と国境を超える、常識を疑い発見するなどの力を育てている。そして、暗黙知を言葉で伝えるコミュニケーション力、異質を排除せず新しい価値を生み出す力を身につけ、競争に打ち勝つエリートよりも信頼と友情に支えられる協働型リーダーを育てていきたいと考えている。

卒業後、大学院進学(ケンブリッジ、ニューカッスルなど)、就職は国内学生就職決定率 98.5%、上場企業就職率 27.1%の成績で英語力が身につけているため即戦力として採用されている。企業人事担当者がAPUに来学して説明会や採用活動を行っている。国内学生は海外に出る人もいるが、地元の企業にUターン(その企業の国際部門に就くパターンが多い)が多い。

(記録 立命館宇治中高 生田 茜)

II レクチャー&グループワーク・体験型ワークショップ

APU入学部長 アジア太平洋学部教授 近藤 祐一先生

まずは、APU学生が普段通常の授業で受講しているような授業を体験した。5分間のストーリーを聞き、許せない優劣を判断していく。ストーリーの要点は以下の通り

- ① ローズマリー(以下、R)対岸にいるジェフリー(以下、G)と恋仲であるが、川には獰猛なワニが生息しており、会うことができない
- ② どうしてもGに会いたいRは、いかだを持っているシンバッド(以下、S)に相談。Sは、いかだを使う条件として、一夜ともにすることを挙げる。
- ③ 苦悩するR。フレデリック(以下、F)に相談するも、Fは「話をきくことしかできない。」
- ④ Rの決断。Sの条件をのむことに。
- ⑤ Gとの再会。楽しい毎日。しかしながら、Rの心には、Sとの一夜のことが頭を離れない。
- ⑥ RがGに告白。GはRを家から追い出す。
- ⑦ 途方に暮れるR。デニス(以下、D)と会い、Dは「好きではないが結婚してあげよう」と言う。

各班における判断は以下の通り。

このWSを通じて、感じたことを発表。

「許せることのポイントは共通するが、許せないポイントの考え方がいろいろある」「どのキャラクターに自己投影をしていたのかによって判断が変わる。」
 「自分の価値観を合わせていくことによって許せない度合いが違う」などの意見があった。

	A 班	B 班	C 班	D 班
許せる	G	R	S	R
↓	R	S	G	S
	S	G	F	G
	F	F	R	F
許せない	D	D	D	D

各班の判断は統一されることなく、それぞれで違いが生じた。なぜ違いが生まれてくるのかという近藤先生の問いに対し、「生活環境」「文化環境」「学校教育」「宗教観」「自身の経験」によって違いが生じることが確認された。

また、各班で男女比のバランスに差異があり、その男女比によって議論の質を感じている教員も多く、国際生が入り混じった場合、より多くの価値観が混じりあって、判断基準が変化していくことを確認した。

これらのグループワークにおけるアサイメントは全会一致の原則で、国際生が混ざると英語をツールに行われるが、違いを感じつつ説明しきれるかという難しさがある。まさに価値観が入り乱れるカオス【混沌】の状態となる。このカオス【状態】を持ち込むことの意味は何かという近藤先生の問いに対して、「課題を見つけて、みんなで協力して乗り越えていく力を獲得する」「聞く力・受容する力・発信のバランス感覚を身につける」といった意見が挙げられた。ある教員からはまさに「アイデンティティ・クライシス」という表現がなされた。個の価値観が崩壊するクライシスを経て意識的に価値観を再構築、新たな価値観を作ることが必要であることが確認された。これらのクライシスな経験に児童・生徒は耐えうるのかという質問に対しては、「相対化」と

いうプロセスができるかという点があげられ、できるだけ、早い段階から母語を言語化していくトレーニングからスタートしていくべきと近藤先生は述べられた。

国際関連の授業では、カオス状態を作らないと視点のずれに気付くことができない。授業の中で、不安になる経験（意見が正しいのか、相手の意見をどのように受け止めたらいいいのか）が、ストラクチャーをブレイクし、新たな価値観を構成する。そして、早い段階からそのような経験へ向けた耐性づくりができれば、このようなクライシスに陥っても、乗り越えることができると述べられた。APUでは初年年次教育に力点を置き、学生たちはカオス状態での難しさや失敗を経験しながら、学びを得ているとお話をいただいた。（記録 立命館宇治中高 川端 悠紀）

Ⅲ 出口 治明 APU学長講話

ご講話の内容は次の通りであった。

世界大学ランキング日本版2018で私立大学中5位に位置する大学である。1位から4位の大学は100年以上の歴史のある伝統校である。

APUは大学の認証（ミシュランのようなもの）を2つ取得している（AACSB / TedQual）。この認証を取らないと海外の学生は安心して進学してこない。

世間は学生の協調性を重視することが多いが、本学は尖った生徒、個性が強い生徒を欲している。なぜなら、三角形を丸くすると面積は小さくなる。それより三角形のままで面積があるほうが伸びる可能性が高いからである。

附属校には、難関校に行ったり、海外に出たり、様々な生徒を育成することを期待している。それが最終的に立命館のレベルや評判を上げる結果に繋がる。子ども達の個性をよく見て、どこに出しても恥ずかしく無い、「尖った」生徒を育てて欲しい。

APUの学生出身地は九州圏内が2割以下で、国際学生、首都圏、関西圏の学生も多く、本当の意味での diversity ではないかと思っている。

一つのことでも頑張れる生徒を育成してほしい。中学高校の学習効果は大きいと思う。

講話後、質疑応答の時間もいただいた。

「尖りたくても尖れない生徒はどうすればいいですか。」の質問に対して「背中を押して欲しい。恐れるなどアドバイスをしてほしい。」と回答をいただいた。

また、学長になられたきっかけが、知人からの推薦というお話を聞いて、「人脈をどのように今まで作られてきたか。」という質問に対しては、人脈は意識的に作るものではなく、その人が魅力的であれば、人は寄って来ると答えていただいた。

そして最後に 出口学長のキーワードは「人、本、旅」であると締め括られて講話を終わられた。また、私たち全員に名刺を配られ、「何かあったらメールアドレスが記載されているので連絡をください。」と話され、会場を後にされた。（記録 立命館宇治中高 谷 英樹）



Ⅳ 国際学生へのインタビュー<班活動>

班別にキャンパス内の国際学生にテーマを持ってインタビューをし、班別に発表を行う取り組みを行った。

V APU学生団体プレゼンテーション (APU学生団体：AUA)

組織図

About AUA

名称【APU UnitedAmbassadors】

Vission：世界を繋ぐ

HRM

： Human Resource Management

HRMの役割は、リクルートを行なうことと、メンバーがAUAで活躍できるようにサポート、マネジメントを行なっている。

また、AUA内の問題解決を行なっている。

Event Team

： Event Teamはイベントの開催を通してAPUの国際生と国内生、またはAPU生と別府の人々をもっと“混ぜる”ことを目的に活動している。「人と人との繋がりが生まれる場」を作り、APU生にとって有益な、心に残るようなイベントの提供をめざしている。

《活動例》別府ガイドツアー、@アフリカンサファリ、ハロウィーンパーティ 等

ACP AUA Company Project

世界へのドアとして、APUの国際色豊かな環境を生かしたい企業や団体、APU生との架け橋の役割を果たしている。繋げることで、新たなことを生み出し、社会に貢献できると考えており、座談会をしたり、調査をしたり、イベントを開催したりしている。

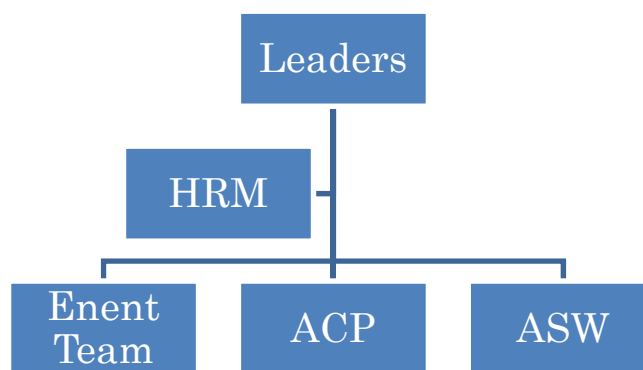
《活動例》別府のマーケティング会社、鹿嶋市役所観光課 等

《3つの柱》ミッションとの整合性、メンバーの成長、企業との対等な関係性

ASW

写真や動画、Facebook、ポスター、ウェブサイトなど多種多様な方法で多くの人と世界をつなげている。

(記録 立命館宇治中高 堤 創)



VI 附属校出身APU学生によるプレゼンテーションと座談会

1. IMさん (立命館高校) (国際経営学部2回生)

①APUの志望理由：新しい環境で、友達と離れて学びたかった。

②APUに入って感じたこと：1回生時は勉強漬けの毎日。でも英語を学ぶだけでは意味がなく、英語で何を学ぶのが大事だと思います。APUでの学びは自分次第です。自分が何をやりたいのか？やるべきなのか？を明確に持つことが大事です。

③APハウスのResident Assistant (RA)について：寮生がAPUや別府での暮らしていくために必要な支援をする学生団体です。IMさんは、2回生からRAとして活動している。活動はすべて日英両言語対応、適宜ミーティングがあり、さまざまなイベント・パーティーを企画している。RAをして身につけた大事なことはタイムマネジメント (限られた時間の中で、休息を含めて優先順位をつけて何をすべきか。)、リーダーシップ (どういうリーダーにメンバーはついてくるのか？を考える) と信頼関係です。特に、組織を築く上で一番大事なことは信頼関係です。APハウスの場合、さまざまなバックグラウンドを持つ人が集まっているのでトラブルもあるが、

相手のことを考えて、相手の立場に立って考えていければ、信頼関係は築けます。

④立命館高校で学んで役に立ったこと：課題研究です。8000～10000字の卒業論文で、高校時代のテーマは「ユニクロとZARAの経営戦略の比較」を研究しました。テーマは大学にいても勉強したいと思えるようなテーマを選ぶべきだと思います。

⑤将来の夢：将来はFAST RETAILINGのマーチャンダイザーに！「服を変え、常識を変え、世界を変えていく」という社是に共感しています。服をひとつ

のツールとして、消費者の価値観、世界観を変えたいと思う。APU在学中にGlobal Study Program（海外インターンシップ）に参加する予定です。



2. SMさん（立命館宇治高校）（アジア太平洋学部 3回生）

①自己紹介：海外生活を経て、立宇治入学。受験もないので高校時代は3年間しっかり、チアリーディングに没頭しました。大学に通じる学びを実践している立宇治の勉強のシステムが好きでした。

②APUについて

授業 個性豊かな先生、個性豊かな学生が多い。グループワークが非常に多い。読まなければいけない書籍も多い、課題がすごく多い。大変だけれど、授業に必死になれるような授業で必死になれる状況が楽しい！

生活・生徒等 もともと自分自身は、積極的なタイプではなかったものの、APUに来て、他の人から触発されて積極性が身についた。環境はすごく大事です。積極性は後からでも身につけられると思います。英語は6段階分かれていて、初級から勉強できますが、一方で、英語開講の授業を一定数以上とらないと進級／卒業できないという、厳しい条件もあります。

APUでの生活は忙しいし、しんどいけど、充実しています。APUは、自分のやりたいことを追求し、叶えていける環境を提供してくれます。

3. SHさん（立命館慶祥高校）（国際経営学部 2回生）

①志望理由：オープンキャンパスでAPUを訪れた際、日本全国トップレベルの国際性に惹かれました。この大学なら唯一無二の力をつけられると思いました。

②APUにしかない魅力とは：市街地から隔離された土地だからこそ、勉強に集中できます。国際生に日本語を教えるプログラムや、FIRST、SECONDなどの国際プログラムがあり、英語の上達や、国際感覚の向上につながります。国際学生の比率が高く、大学のシステムが画期的です。日本の従来の「枠組み」にとらわれず、新たに提案したいこと、挑戦したいことについても学生を支援してくれます。

③入ってみてわかったAPUの魅力：国際経営学部教授陣は、海外の金融界、経済界で戦い抜いた人や、海外で認証されているライセンスを持つ人がいて、世界に直接つながっていることを実感できます。

④APハウス：英語が得意でなくても、多少文法的に間違った英語でも、大丈夫です。とにかく英語を使ってコミュニケーションをとろうとする姿勢が大事なのだと感じました。国際学生も英語ネイティブではないことが多いので、気にする必要がありません。英語力の上達を感じています。

⑤所属するいろいろなサークル・団体：GASS（Global Admission Student Staff）としてオーブ

ンキャンパスを運営しています。Life Music という音楽サークルに所属しています。あと、APU初年次教育MCW (Multicultural Workshop) に参加し、異なる文化背景を持つ人のためにどういう授業構成をすれば良いのか考えています。全員英語を母語としない学生にもかわらず、ミーティングはすべて英語です。多文化共生を実感できます。

⑥今後の目標は：APUのMulticultural Week で音楽に1週間コミットするウィークをやりたいです。音楽もコミュニケーションのツールのひとつです。そして、歴史に名前を残すことが目標です。

最後に、与えられている時間を大切に、やれることをしっかりやる。自分の目標につながるような大学生活を送りたいと思います。

4. ISさん (立命館守山高校) (国際経営学部 2回生)

①高校時代：ほとんどが部活の生活でしたが、海外研修で、海外の人とのコミュニケーションをとることの楽しさを知ったことがAPUに入るきっかけになりました。人にものを伝えることが好きで、プレゼンを多用していたことは、大学生活においても生きる力になりました。

②APU Life：APハウスでは異なる文化を体験できました。しかし、文化の違いで戸惑うこともありました。MCWでは、メンバー間で文化の違いで様々な衝突がありました。相手に悪気はないからこそ、伝えるのが難しかったです。全員で課題に取り組まなければならないので、根気強く説得し、課題を成功に導くことができました。このことを通して、コミュニケーションをとる上で一番大切なことは「相手を尊重すること」だと気づきました。

③大学生活：BEPPU TIMES という温泉だけじゃない！別府のよさを伝えるWEBページを作っています。高校時代から身につけてきたリーダーシップを活かして、活動している。そして、ドリプラスタッフという高校時代にお世話になったプロジェクトに、今度はスタッフとして関わっています。

④APUのいいところ：国際的な環境と授業で学んだことが、生活・仕事・さまざまな活動に活かせ、直結していることです。

⑤将来の夢：旅行会社で働いて、高齢者向けの企画をしたい。また、観光型のフェアトレードをしたいなど、目標は今もたくさんある。目下の目標は自分の視野を広げることです。

(記録 立命館宇治中高 福崎 康裕)

(編集 附属校教育研究・研修センター 羽田 澄)